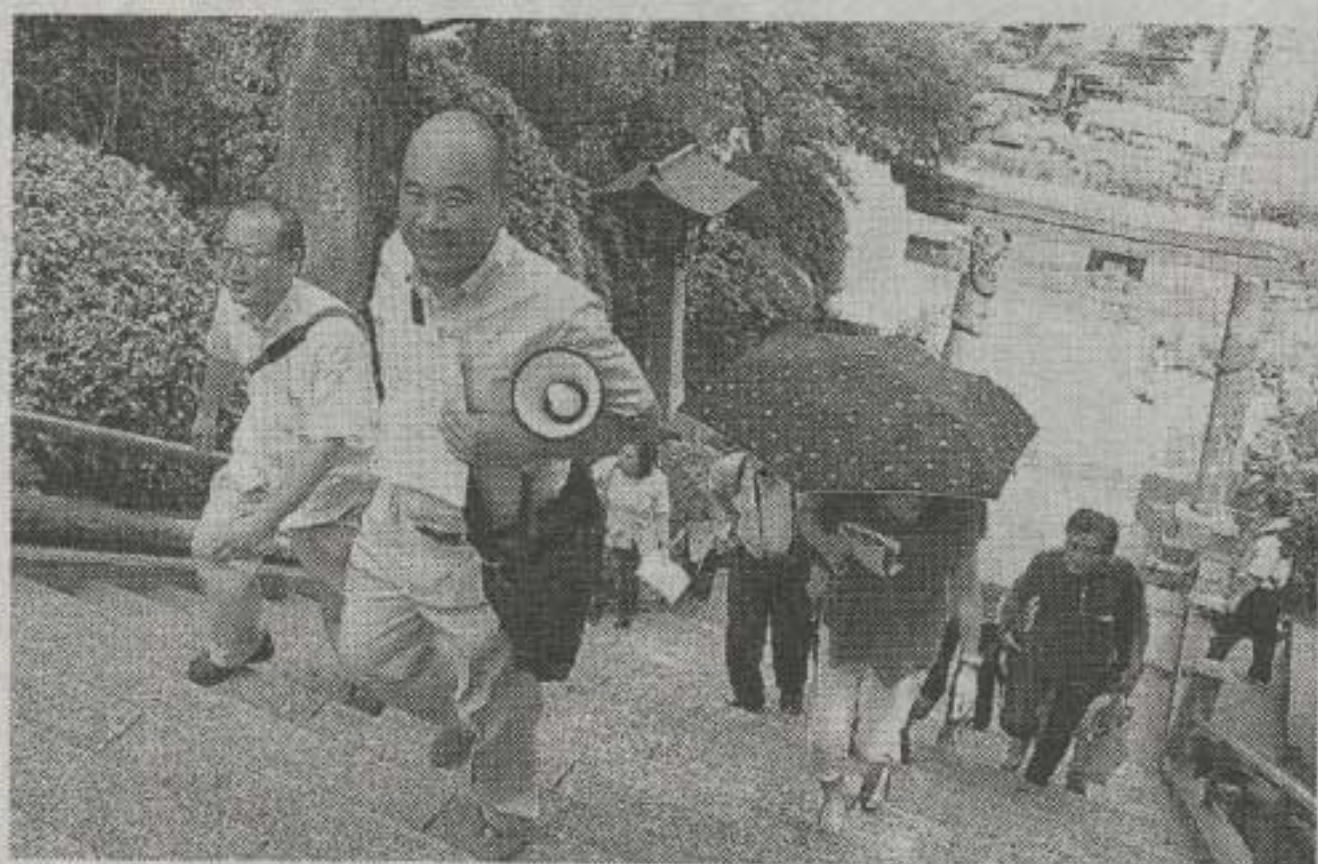


切絵図で知る江戸の面影



品川神社の石段をのぼる「江戸歴史散歩の会」の一行。先頭が代表の榎本民夫さん＝7月、東京都品川区

江戸時代、旧東海道最初の宿場としてにぎわった東京・品川。京浜急行・北品川駅にほど近い小さな案内板の前で、十数人の男女が目をこらす。「江戸歴史散歩の会」の一行だ。

ここはかつて、「磯の清水」と呼ばれる名水が湧いた場所。宿場町の貴重な水源で、干ばつでもかれなかつたと言われている。

「見てください、切絵図（江戸時代の区分地図）にも、江戸名所図会（挿絵つき名所案内）にも、ここに

井戸が描かれているでしょう。海辺でも真水が湧いたんですね」

案内役は、会代表の榎本民夫さん(53)。当時の様子を伝える切絵図や浮世絵などを切り張りした手作り資料を使い、解説する。

品川沖に迷い込み、江戸中の評判となった巨大クジラの供養碑「鯨塚」、三代将軍家光が沢庵禅師のために建立した東海寺……。一行は寺社や史跡を4時間かけて歩き、江戸の面影に思いをはせた。

古地図散歩の達人として知る人ぞ知る榎本さんは、東京都稲城市で工務店を経

営する。「平たく言えば大工、棟梁です。いまも、かね尺を使い、木造在来工法の家を建ててます。江戸時代のお城や蔵だって修理できますよ」

切絵図を手に歩くと、当時のままの道筋が東京のあちこちに残る。武家地と町人地では、今も雰囲気が違うという。「石垣ひとつ、樹木1本でも痕跡を見つけて、江戸のにおい、暮らしの人の息づかいを感じるのが好きですね」

会立ち上げは2001年。自分のウェブサイト「江戸歴史散歩」で同好の士を募ったところ14人が集

まった。以来10年、散歩は170回、会員は1千人を突破した。申し込みが多いため、複数の日程、班にわけて実施している。

花や木に詳しい人、お墓めぐりが趣味の人。女性の参加者も増え、すでに4人に1人という。今回の品川宿コースも、女性スタッフ提案したものだ。

「食べ歩きが趣味の会員に教えられ、甘いモノにも詳しくなった。品川には、江戸時代に名産だった品川カブを使った『江戸野菜スィーツ』が食べられる菓子店もあるんですよ」

(清川卓史)